

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 4 部門第 1 区分

【発行日】令和 2 年 4 月 30 日 (2020.4.30)

【公開番号】特開 2018-178684 (P2018-178684A)

【公開日】平成 30 年 11 月 15 日 (2018.11.15)

【年通号数】公開・登録公報 2018-044

【出願番号】特願 2017-93405 (P2017-93405)

【国際特許分類】

**E 0 4 B**     1/26     (2006.01)

**E 0 4 B**     1/58     (2006.01)

**E 0 4 C**     3/12     (2006.01)

【F I】

E 0 4 B     1/26                    G

E 0 4 B     1/26                    A

E 0 4 B     1/58            5 0 7 L

E 0 4 C     3/12

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 2 月 17 日 (2020.2.17)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

木造扁平柱の断面短辺両側の柱頭柱脚全長にわたる溝に P C 棒鋼に予めネジ部を備え装着した前記扁平柱と、梁長 3 ～ 4 m 中央の断面上下を貫通した異形棒鋼両端小口に予め凹ネジ部を備えた梁を、前記扁平柱 P C 棒鋼と梁下端、又は上端の異形棒鋼中心軸を揃え、前記、扁平柱短辺両側の P C 棒鋼と梁の異形棒鋼を、T 型、又は十字型に結合した架構、又は前記架構の梁端同士をピン構造の接合部で結合したことを特徴とする架構。

【請求項 2】

前記、請求項 1 記載の長方形箱型接合部品を扁平柱短辺左右対称の 2 個の箱型接合部品を連結一体化した接合部品としたことを特徴とする架構。

【請求項 3】

前記、請求項 1 又は 2 記載の扁平柱両端 P C 棒鋼を柱頭柱脚中間位置で水平に扁平柱を貫通した棒鋼で連結した部材を、前記扁平柱に複合した架構。

【請求項 4】

前記、請求項 1 ～ 3 記載の木造扁平柱の断面短辺両側中央全長の溝内の P C 棒鋼を、鋼線・炭素繊維・アミラド樹脂等によるワイヤ又はロープ状の引張材両単に治具を予め一体化した複合部材に替えて装着したことを特徴とする架構。

【請求項 5】

前記、請求項 1 ～ 請求項 4 記載の架構の梁を自在な長さの梁端同士を、直線状、直交、又は自在な角度で連結して構成する架構、又は前記 T 型、又は十字型架構の梁端以外の柱、又は壁とピン接合する架構。